

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491300196		
法人名	株式会社 オルゴール		
事業所名	グループホーム 奏		
所在地	三重県名張市安部田2309番地		
自己評価作成日	令和5年8月16日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvoSyCd=2491300196-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和5年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>創作作品の作成：年に1度秋に開催の地域文化祭行事への出展作の取り組みは入居者、職員とが考えて取り組み地域交流への参加交流を持っています。</p> <p>音楽療法：月に1度開催する音楽療法（音楽セラピー）は併設のデイサービスと共同開催し、好評を得ています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>今年4月で開設10年。入居者の平均年齢は85歳。平均介護度は2.3。入居年数は3年以上10年未満が9名中4名。職員は介護職経験年数が5年以上の職員が10名。その内10年以上の職員は6名。開設時から代表取締役が考えた『kanadeの5つの介護』1利用者ご家族の両者と向き合い話し合い皆様と一体となって考える【皆護】2個々の持つ最大限の懐かしい能力を目覚めさせる【懐護】3五感を刺激し人を快くする食事提供【快護】4常に創作と創造を改革し作品と思い出作り【改護】5そして、出会いを大切に【会護】が『5つの介護』である。この理念を念頭に職員・家族・地域・行政と共有しながら、入居者の想いと自立した支援にチーム一丸となって取り組んでいる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	休憩室に事業所理念を掲示し、それに照らし合わせたサービス支援の実践を行っている。	開所以来の理念で職員間の共有は出来ている。また読みやすく書かれた理念は休憩場所に掲げ、日々の支援の振り返りにもなっている。自立支援と尊厳を基本とし支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から花や野菜をいただいたり、また利用者様の作った作品をプレゼントしたりと地域交流をしている。	事業所は常に花が絶えず、地域の方々はその花を話題にしながら散歩やお喋りをしている。そこから野菜のお裾分けに始まり、災害時の協力の話まで発展する等地域とは日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	井戸端交流と題して近隣の道行く方々と簡単なお困りごとの相談を積極的に行うことにご理解や支援を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実施できていないが近日中に開催を計画している。	この1年は運営推進会議は出来ていなかったが、虐待防止や身体拘束等について行政からの研修会に参加し、職員の知識や協力体制を整えた後、今月末から開催したいと思っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や名張市のケースワーカー（生活保護担当者）との連絡は密に行い気軽に連絡・相談のできる関係性を築いている。	利用者や家族に優しい料金体制であり、生活保護者の受け入れにも力を入れている。行政の各担当者からの信頼性も厚く連携も密である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員からの拘束等に関する質問には早急な対応をし、身体拘束になるアイテムなどの撤去に努めている。	「虐待の防止・身体拘束」等については、行政から職員向けと管理者向けの研修への参加を予定している。また身体拘束廃止委員会等については代表取締役の協力の元、BCP（業務継続計画）等の資料作成と研修を計画している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県社協に依頼し今年度2回の研修と休憩室にカギ付きの目安箱を設置し内部からの情報が聞き取れるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在6名の入居者が生活保護受給者の為、担当の市の職員が定期的に訪問し権利擁護や自立支援についての意見交換をする機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、口頭での説明だけでなく契約者（ご家族）が理解できていないことに対して補足的な書類を用いて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席していただいた家族には日々の疑問、相談等の声を聞かせてもらいました、面会の際には職員のほうから声をかけるように心がけている。	毎月の利用料の支払い時の面会、家族の利用者への病院受診時、月1度の主治医の往診時の知らせ、利用者の誕生日のお祝い等の時を利用し電話や面会時に話し合いをし意見などを聞いている。家族は協力的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の意見や質問に応えられるようにまた、職員も気軽に意見ができるように休憩室にポストを設置し提案や意見などを出してもらい反映のできる環境をつくっている。	代表取締役も気楽に現場へ出向き職員の意見や要望を聞いている。「休憩所が欲しい」との要望で事務所を使用できるようにする等、話しやすい関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境等は社労士と相談し法令順守にて、責任と業務内容とが釣り合えるような給与形態をはじめ勤務態度の反映、研修、資格取得の向上心を持てる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量と向上心の促進を考慮し、法人内で自主的に外部より講師を招き虐待やサービス支援に関する講義を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設するデイサービスとの交流を通してグループホームにはない事柄など就労しながら各サービス（介護業務）の持っているソフト面を学びサービス向上とモチベーションアップへの取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当日に初対面とならないようにサービス提供前（入所前）に本人と担当ケアマネに直接面会をする機会を設け話を伺うようにしている。また、事前に知りえた情報と本人（家族）の意向をもとに入居生活の支援に取り組む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で家族が困っている隠れた悩みや家庭環境等と言った相談ごとなどできる限り相談できやすいよう入居前の前任担当のケアマネも踏まえての関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネと十分なカンファレンスを行い、上記（15、16）から得た情報を基に、入居後に訪問診療医、看護師、職員、管理者の意見等情報共有をもって対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除を一緒に行うことで共同生活の関係性や連帯感を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と会話のしやすいように通院や外食等断りなく受け入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年5月コロナが第5類に移行してから、面会の条件制限を解除し、家族との交流を再開し頻繁に会えるように努めている。	一番の馴染みは隣にある法人のディサービスの皆さんである。お互いに手作りの食事が自慢であり、料理の交換なども気楽に行っている。家族との受診の帰りに外食に出掛けるなど段々と継続支援も増えてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂に集まり全員での体操・歌等の時間を1日1回設けて連帯感を持てる雰囲気づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もケアマネを通じて入居時の支援情報や相談等問題解決にも断ち切ることなく積極的に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族より入居時に支援等の希望を詳しく聞き取り、サービス提供に努め定期的入居者個々の生活環境の整備を検討している。	一人ひとりに合ったアセスメントシートを作成できるように利用者、家族、職員などから意見や要望、日々の支援時の気付きなどを丁寧に聞き、現状に合った支援が出来るように作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居初期は今までの家での生活状況を家族や当時の担当ケアマネより聞き取り用紙を見ながら個々のサービスの経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	訪問医、看護師の意見を基に個々の身体状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望、担当医師からの身体的・機能的情報、看護師からの服薬情報等を考慮し、本人の意向を可能な限り反映できるように見直し、努めている。	アセスメントシートが完成後、介護支援専門員が介護計画書を作成している。家族、利用者への説明は介護支援専門員、管理者が行っており現状に添った支援を話し合っている。	前介護支援専門員の退職や現介護支援専門員の体調不良などで介護計画書が未完成である。大事な計画書であるので本人・家族・必要な関係者と話し合い、現在の介護計画書の作成を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎノートの様式を報告するだけでなく気づいた点や次のステップへ行くためのアドバイスを記入することで情報共有に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の負担を考慮し、通院やリハビリなど事業者が代わりに通院援助をしている。また、家人の可能な範囲内で外泊もしていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の文化祭への参加を積極的に関わり組むことで地域資源の有効的な活用と豊かな暮らしの環境づくりの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療と地域医療連携の充実観点から入居後も在宅時よりのかかりつけ医を引継ぎ受診してもらうと同時に、訪問診療（往診）との協力体制にて可能な限りの範囲で医療サービスに努めている。	今までのかかりつけ医か、事業所の主治医か利用者によって異なる。かかりつけ医の受診は家族が基本であるが事業所の対応も可能である。主治医は月1回、訪問看護師は週1回、歯科医は3ヶ月に1回と訪問し、適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日勤務の事業所所属の看護師と訪問看護師と共通して薬の管理や医療受信時の助言、緊急時の連絡体制をつくりサービス支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の緊急連絡は(同上31)で対応し退院に向けての対応は事業所管理者が対応し各職種間の連携に努め早期退院の実施に反映している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に入居していた方の看取りをしたときに担当医から良い評価を得た経験を活かし、本人・家族と話し合い終末期(看取り)について共有し、介護職員・看護師・医師との連携体制で支援に取り組んでいる。	終末期や看取りについて、主治医や看護師からの協力は整っており、また職員の気持ちや体制なども主治医からお墨付きである。利用者や家族の想いに沿った支援が出来るように職員研修含めチーム一丸となって取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員が平均的な知識や実践力を身に付けられるように有事での対応訓練を実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会い検査の際に改善報告として近く年2回の防災訓練の実施を言われたため、近く訓練実施を計画している。	今年の台風で12時間の停電を経験した。災害用の卓上コンロを酷使し、冷凍食品は蒸し器を使い、普段通りの食事ができた。暑さ対策は多量の製氷剤や団扇などで乗り越えた。今後の対策の勉強にもなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの身体能力、認知能力を把握し身近な存在で接することのできる言葉かけやプライバシーの確保に努めている。	居室ドアのガラスの小窓が不安な利用者にはタオルでカバーする等プライバシーに配慮し対応している。日々の支援での対応にも気を付けている。新入社員には尊厳とプライバシーについては特に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設生活の自己決定は概ね否定することはず、趣味の時間に費やす方、自室でパソコンをする方、食堂で会話する方など比較的自由にしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の業務が続く中、時間の流れが単調になることが時々あり、それに対応できるように余裕を持った職員の整備に努め日々の生活支援の反映に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりの衣類や小物については本人の要望にできるだけこたえられるようにしていると同時に清潔保持にも心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所のコンセプトのひとつに『食は生活の基本』とし料理は手づくりにて。食材調理の匂いなど五感を刺激できるようにホットプレート等で目の前で調理をしたりと一緒にできるような演出をしている。	「食」には開所当時から力を入れている。買い物袋から食材が見えたりすると、利用者からインゲン豆の筋取りをしたりと、得意分野を活かしつつ全員で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスはもちろん嗜好にも気を配りながら個人の体重管理や摂取量等の調整管理の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄については自ら行えるところまで見守りにて実施してもらい、不可の部分は職員の援助にて実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のコントロール（時間把握）をしておむつ使用量の削減をし、排泄の自立に取り組んでいる。また、数人の方は布パンツでの生活をしてきている。	布パンツ3名、リハビリパンツ使用6名である。排泄リズムを把握しながら、尊厳には注意し、自立支援を常に考慮しながら現状のレベルが落ちないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る排便ではなく、基本食事と運動に重点を置いた便秘の予防を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当事業所では入浴の日時を決め、入浴のあることで毎日の曜日を把握してもらえるようにしている。	入浴は午後から週3回。シャワーは流しっぱなしである。毎回の入浴剤の色や香りも楽しんでいる。マイシャンプーやリンスなどを持ち込む利用者もいる。入浴後のワセリン塗布による保湿など利用者本位で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の部屋の明るさ、ベッドの向きなどを考慮して安心して快適な睡眠時間の提供ができるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	重複している薬や服薬量の多い場合は医師や看護師に相談し、見直しと改善をしていただき、本人に無理とストレスのない服薬の管理を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーマを提供することで単調になりがちな生活を張り合いや喜びのあるものへとしている。例えば文化祭に出展する作品の共同作成や夏祭りの開催などの提案をする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊については積極的に実施しています。受診の際のドライブや春の花見、家族間での外食などは実践している。	最近、家族との受診後外泊を楽しんだり、お盆に墓参りに出かけるなど外出が出来るようになった。また、この秋はとても楽しみにしている比奈知ダムへ見事な紅葉を車で見に行く予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方の希望があれば対応しますが、基本的には本人、家族のご了承のもと金銭等トラブルのないように事業所での金銭（貴重品）の所持はご遠慮していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代筆や投函など支援しています。また、年賀状などが届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材素地の設計の為屋内は比較的明るく、廊下の壁面には季節のイベント写真や飾り物などを施し気分的に楽しんでもらえる空間づくりに配慮している。	看取り時、気楽に訪問しやすいように玄関近くに他より少し広い2部屋がある。フロアーの中心に排煙装置のある天窓が2ヶ所あり、天窓の間に扇風機もセットされ感染対策にもなっている。見守りしやすい広さと明るさである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の性格や気の合う者同士、車椅子利用者の座る位置など考え、共同生活全体が不穏にならないような居場所の環境づくりに工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はプライベート空間である為、本人・家族の自由な部屋の模様(レイアウト)をしていただいています。パソコンやDVDを持ち込んでの方もおられます。	居室のドアには静かに安否確認が出来る様にガラスの小窓がある。パソコンでネット検索、テレビ鑑賞、映画やドラマのDVD。可愛い物ばかりを飾る利用者等、個々の希望に沿った居心地良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるように名前だけでなく写真も添付し、食堂での自分の席などわかるようにできる限り自立した日常を過ごせるように工夫をしている。		